

令和9年度  
九州歯科大学附属病院  
歯科医師臨床研修プログラム

## 九州歯科大学附属病院研修歯科医 採用ポリシー

医療や介護の益々の需要増加が予想される超高齢社会において、住み慣れた地域で最後まで生活できるよう地域包括ケアシステムの構築が進められている。そのような社会環境の変化の中で、全身の健康を守るという視点に立ち、多職種と連携した適切な歯科医療が提供できる歯科医師が求められている。また、一方で、歯科医療のすそ野の広がりに伴い、多様な社会的ニーズに応えられる歯科医師への求めも拡大してきている。九州歯科大学附属病院では、歯科医師臨床研修の基本理念\*を尊重しつつ、九州歯科大学附属病院の基本理念\*\*と基本姿勢\*\*\*に基づき、そのような社会的ニーズに対応できる人材を育成するために多彩なプログラムを準備しており、以下のような人材を求める。

1. ヒューマニズムに富み、より高いレベルのプロフェッショナリズム醸成を目指す人材
2. 口の健康増進を通じて健康寿命の延伸に働きかけることを目指す人材
3. 多職種と連携し、地域に密着した歯科医療の展開を目指す人材
4. 患者のライフステージに寄り添う歯科医療を目指す人材
5. 高度な専門的歯科医療の基盤となる知識・技術の修得を目指す人材

### \* 歯科医師臨床研修の基本理念

(歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令)

臨床研修は、歯科医師が、歯科医師として的人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるように、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

### \*\*九州歯科大学附属病院の基本理念

九州歯科大学附属病院は、高度な専門性を持った歯科医療人を育て、地域の歯科医療の中核病院として、最高水準の医療を行います。

### \*\*\*九州歯科大学附属病院の基本姿勢

- ・わたくしたちは、患者さまの尊厳を大切にし、十分な説明の上で理解していただき、納得できる医療を行います。
- ・わたくしたちは、地域の中核病院として、高度で先進的な医療を提供します。
- ・わたくしたちは、地域医療機関や地方自治体と連携し、口腔保健や医療の向上を図ります。

## 令和9年度九州歯科大学附属病院 歯科医師臨床研修プログラム

### 研修プログラム名称

1. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムA：単独型プログラム（募集数 30 名）
2. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムB：複合型プログラム（募集数 50 名）

### 研修プログラムの特徴

本院臨床研修プログラムは附属病院で12か月間研修を行う単独型のプログラムAと協力型（I）へ6か月間出向する複合型のプログラムBで構成されている。両プログラム共に必修研修と選択研修を設け、臨床研修修了後の生涯研修との連続性を考慮したものとなっている。

#### 1. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムA（プログラム番号：050029001）

- (1) プログラム責任者 吉居 慎二  
副プログラム責任者 吉岡 泉  
副プログラム責任者 森川 和政  
副プログラム責任者 正木 千尋  
副プログラム責任者 永松 浩  
副プログラム責任者 高橋 理
- (2) 形態 九州歯科大学附属病院で共通研修、総合診療研修と専門診療研修を行う単独型プログラム。
- (3) 特色 基礎研修、総合診療研修、病棟研修、スキルアップ研修では基本術式の習得と医療人としての倫理観の修練を行い、高頻度疾患を多く経験することにより基本的な臨床能力を身につけることができる。また、専門診療研修では必要な専門知識の習得と実践など広範囲に研修できるよう構成されている。さらに、専門診療科研修期間を拡充することにより、各診療分野における専門性をより深く学ぶことができ、将来の進路選択やキャリア形成につながる研修体制となっている。
- (4) 指導体制 総合診療科、各専門診療科の指導歯科医が直接研修歯科医の指導に当たる、又は、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医が指導に当たる。
- (5) 研修期間 令和9(2027)年4月1日から令和10(2028)3月31日までの1年間（12か月九州歯科大学附属病院）
- (6) 募集人数 30名
- (7) 採用方法 書類審査および面接試験により採用希望順位を決定し、歯科マッチングシステムに順位登録。マッチング組み合わせ決定後仮契約、歯科医師国家試験の合格者のみ本契約とする。

## 2. 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムB（プログラム番号：050029202）

- (1) プログラム責任者 永松 浩  
副プログラム責任者 吉岡 泉  
副プログラム責任者 森川 和政  
副プログラム責任者 正木 千尋  
副プログラム責任者 吉居 慎二  
副プログラム責任者 高橋 理
- (2) 形態 管理型相当大学病院(6か月)と協力型(I)臨床研修施設(6か月)で研修を行う複合型プログラム。管理型相当大学病院で学内研修後、協力型(I)臨床研修施設への出向時期は10月～3月。
- (3) 特色 管理型相当大学病院では、基礎研修と専門診療研修を行い、それぞれの診療科における典型的な症例や専門知識の習得など広範囲に研修できるよう構成されている。特に、大学病院における専門診療研修を通じて、多様な症例への対応力と専門的知識・技能の基盤を養うことができる。また、協力型(I)臨床研修施設においては、高頻度疾患を多く経験し、医療管理・地域医療等の包括的歯科医療を経験することができる。大学病院と協力型臨床研修施設の双方で研修を行うことにより、専門性と一般臨床実践力をバランスよく修得できる構成となっている。
- (4) 指導体制 管理型相当大学病院では総合診療科、各専門診療科の指導歯科医が直接研修歯科医の指導に当たる、又は、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医が指導に当たる。協力型(I)臨床研修施設では研修実施責任者の下、指導歯科医が指導に当たる。
- (5) 研修期間 令和9(2027)年4月1日から令和10(2028)3月31日までの1年間(6か月九州歯科大学附属病院6か月協力型(I)臨床研修施設)
- (6) 募集数 50名
- (7) 採用方法 書類審査および面接試験により採用希望順位を決定し、歯科マッチングシステムに順位登録。マッチング組み合わせ決定後仮契約、歯科医師国家試験の合格者のみ本契約とする。

表1 九州歯科大学附属病院での研修内容

基礎研修	オリエンテーション 医療安全・感染予防講義、保険診療総論、保険診療各論 学校歯科健診、地域保健活動、臨床講義、セミナー、 BLS研修（口腔顎顔面外科、口腔内科・口腔外科） 訪問歯科診療研修（口腔リハビリテーションセンター）5日間
プログラムA	総合診療科研修（約50日間） 病棟研修1か月 スキルアップ研修

表2 ローテーション研修・・・13専門診療科より研修を希望する科を選択する

	1か月	3か月	5・6か月	8か月	11か月
1. 総合診療科	○	○	○	○	○
2. 保存治療科		○	○	○	○
3. 歯周病科	○	○	○	○	○
4. 義歯科	○	○	○	○	○
5. 口腔インプラント科		○	○	○	○
6. 口腔顎顔面外科	○	○	○	○	○
7. 口腔内科・口腔外科	○	○	○	○	○
8. 歯科麻酔科・ペインクリニック		○	○	○	○
9. あんしん科	○	○			
10. 歯科放射線科	○	○	○	○	○
11. 小児歯科	○	○	○	○	○
12. 矯正歯科	○				
13. 口腔リハビリテーションセンター	○	○	○	○	○

※新年度附属病院診療科編成等により変更する場合があります。

## 研修スケジュール

### 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムA

募集数：30名

形態：九州歯科大学附属病院で総合診療研修とローテーション研修を行う単独型プログラム

プログラム	募集数	出向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラムA	30	無	病院棟	ローテーション研修										
				週単位での総合診療科研修（約50週）										

訪問歯科診療研修5日間とする。但し、口腔リハビリテーションセンターを選択する者は行わない。

- ・ローテーション研修は13専門診療科より選択
  - ・ローテーション研修期間の選択方法は下記から選択
  - ・同一診療科の選択は可
- ①11か月 ②8か月+3か月 ③8か月+1か月+1か月+1か月 ④6か月+5か月  
⑤5か月+3か月+3か月 ⑥5か月+3か月+1か月+1か月+1か月

### 九州歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラムB

募集数：50名

形態：管理型臨床研修施設と協力型（I）臨床研修施設で研修を行う複合型プログラム

協力型（I）臨床研修施設への出向期間は10月～3月の6か月間

プログラム	募集数	出向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラムB	50	有	ローテーション研修						協力型（I）臨床研修施設					

- ・訪問歯科診療研修5日間とする。口腔リハビリテーションセンターを選択する者は行わない。
- ・ローテーション研修は13専門診療科より選択
- ・ローテーション研修期間の選択方法は下記から選択
- ・同一診療科の選択は可

①6か月 ②5か月+1か月 ③3か月+3か月 ④3か月+1か月+1か月+1か月

**\*病院歯科に出向する場合総合診療科研修3か月は必須とする。**

## 指導体制

### 1. 管理・運営

公立大学法人九州歯科大学および九州歯科大学附属病院臨床研修管理委員会のもと臨床研修センターがその業務に当たる。

### 2. 研修管理委員会

九州歯科大学附属病院長、プログラム責任者、副プログラム責任者、九州歯科大学事務局長、各協力型（Ⅰ）臨床研修施設の研修実施責任者、外部委員で構成され、臨床研修の実施の統括管理を行う。

### 3. 臨床研修運営部会

プログラム責任者、副プログラム責任者、指導歯科医、臨床研修センター員で構成される。

### 4. 臨床研修指導歯科医（指導歯科医）

研修歯科医を指導する常勤の歯科医師であり、原則5年以上の臨床経験を有し、臨床研修指導歯科医講習会の受講が求められている。総合診療系診療科の指導歯科医は、担当患者の総合治療計画立案、治療および、各種治療手技の習得・習熟を直接指導・評価する。

### 5. 上級歯科医

指導歯科医以外で、研修歯科医よりも臨床経験の長い歯科医師をいう。いわゆる「屋根瓦方式」の指導体制においては、指導歯科医と研修歯科医の間にあって、重要な役割を担う。治療方針の相談や治療実施後の確認を行う。

### 6. 歯科医師以外の医療職種（指導者）

歯科衛生士、歯科技工士、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師等、研修歯科医の指導に関係する歯科医師以外の医療職種全てを指す。研修歯科医の真正な評価のために、歯科医師以外の医療職種や患者・家族などからの評価も含めた、いわゆる「360度評価」を実施する。

### 7. メンター

メンターは、指導を受けるメンティー（研修歯科医）に対して定期的なコミュニケーションをとり、研修の進捗状況の把握を通して研修生活やキャリア形成全般についての助言、精神面でのサポートなど、継続的な支援を行う。

## 歯科医師臨床研修到達目標に関する評価（プログラムA B共通）

### 研修目標

患者中心の全人的医療を理解した上で、すべての歯科医師に求められる総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけ、生涯研修の第一歩とする。

### 研修到達目標

#### A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

##### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

##### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

##### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

##### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

#### B. 資質・能力

##### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

##### 2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

##### 3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。

- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

#### 4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

#### 5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

#### 6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

#### 7. 情報・科学技術を活かす能力

- ① 情報倫理(AI 倫理を含む)及び個人情報を含むデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
- ② 健康・医療・介護に関わる情報倫理及びデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
- ③ 医療・保健・介護分野での Internet of Things (IoT)技術や AI 等のデータの適切な活用について理解する。

#### 8. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

#### 9. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。

- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

#### 10. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

[到達目標A、到達目標B評価方法]

【到達目標A】 研修を通じて常に考え実践する。

【到達目標B】 研修を通じて常に考え実践する。7.から 10.は臨床講義において知識と視野を広める。

i) 日々の振り返り 指導歯科医とその日の予定のすり合わせを行い、研修終了時にその日の振り返りを行う。  
翌日指導歯科医はすり合わせと共に前日の評価を行うことで形成的評価を行う。

ii) 臨床講義を通じ、自己研鑽する。

事前研修課題・事後レポートが課された場合は九州歯科大学 e-learning システム（以下 Moodle）に提出し、講師または指導歯科医が評価する。

iii) 自己評価 5月・9月・3月に、4段階で評価を行う。これを指導歯科医が形成的に評価する。研修期間を通じて評価が上がるのがのぞましい。

iv) 多面評価 各診療科・施設研修修了時に5段階で多職種により多面的に行う。研修修了に向けて評価が上がっているのがのぞましい。

v) 指導歯科医評価 各診療科・施設研修修了時に5段階で指導歯科医により行う。これを指導歯科医が形成的に評価する。研修修了に向けて評価が上がっているのがのぞましい。

\* iii)～v) の評価基準は別に記載

管理

管理に当たってはクラウド型学習管理システム Moodle を用いる。

#### C. 基本的診療業務

[到達目標C評価方法]

\*いずれのプログラムにおいても必要症例数の数字を目標とし、症例数は診療回数ではなく処置の開始から終了までを担当して1症例をすることを基本とする。

\*本院では原則当該処置の担当歯科医として研修を行うため記載した症例数には同時に経験するものを含み、研修期間を通じて研修歯科医が自験する目標数値とする。

\*症例評価項目が同じ場合、同じ「必要（目標）症例数」となるがこの数値は加算されない。

##### 1. 基本的診療能力等

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画：35（50）症例

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。

- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

(2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。

予防処置（ブラッシング指導、メンテナンス等）：35（50）症例

- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。

**a. 歯の硬組織疾患（充填）：7（10）症例**

**研修内容：**う蝕診断、窩洞形成、コンポジットレジン修復、修復物調整・研磨を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**観察評価、症例承認、診療録確認。

**b. 歯髄疾患（根管治療）：3（4）症例**

**研修内容：**歯髄・根尖性歯周炎の診断、抜髄または感染根管処置、根管充填、術後評価を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**観察評価、X線評価、症例承認、診療録確認。

**c. 歯周病（SRP等）：7（10）症例**

**研修内容：**歯周組織検査、診断、スケーリング、SRP、再評価、口腔衛生指導を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**観察評価、再評価結果確認

**d. 口腔外科疾患（抜歯等）：3（5）症例**

**研修内容：**抜歯適応判断、局所麻酔、単純抜歯、術後管理、偶発症対応を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**観察評価、症例承認、術後経過確認。

**e. 歯質と歯の欠損（クラウン・ブリッジ・義歯）：6（10）症例**

**研修内容：**支台歯形成、印象採得、咬合採得、試適、装着、義歯調整を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**形成評価、適合評価、症例承認。

**f. 口腔機能低下等（口腔機能管理）：1（2）症例**

**研修内容：**口腔機能低下症の評価、口腔機能検査、訓練指導、継続管理を行う。

（一連の流れを行なって一症例）**評価方法：**評価結果確認、指導内容確認、症例承認。

- ③ 基本的な応急処置を実践する。

基本的な応急処置：1（2）症例

- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。

バイタルサインの観察・全身状態評価：35（50）症例

- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。

診療記録・文書の作成：適切な診療実践：C-1（2）で実施

- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。（医療安全講習会）

- ⑦ インシデント、ヒヤリ・ハット事例等を経験したら、報告書等を作成するとともに、

その発生要因を分析することにより、必要な対策について理解し、実践する：5症例

### (3)患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。  
歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。  
カンファレンス・ケース発表2回
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。  
主治医等との診療情報共有2(2)症例
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。  
術前・術後バイタルサイン・体調確認 :C-I (2) ④で実施
- ④. 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。  
BLS 講習会参加

### (4)患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。適切な診療実践 : C-I (2) ①で実施
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。適切な診療実践 : C-I (2) で実施
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。訪問歯科診療の経験 : 5 (5) 症例

## 2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

### (1)歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。: 診療にて実施
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に作成するとともに、必要に応じて連携を図る。: 診療にて実施
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。: レポート評価

### (2)多職種連携。地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。: レポート評価
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。: レポート評価
- ③ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。  
訪問歯科診療の経験 : C-I (4) ③で実施

### (3)地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。: レポート評価
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。: レポート評価
- ③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。  
講義・実習、学校歯科健診 : 2 (2) 症例

### (4)歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。: レポート評価
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。適切な保険診療の実践 : C-I、2で実施
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。: レポート評価

## 管理

指導歯科医はケース管理表の症例経験状況を確認し、症例の配当を行う。

講義受講は必須

レポートは評価表にもとづいて指導歯科医が評価する。

## 到達目標の達成度の評価

ケース管理と共に総合的な評価に従い常に形成的評価を行う。

### 【総合診療研修】

自己評価・指導歯科医評価により評価する。

### 【協力型（Ⅰ）臨床研修】

実施責任者は協力型（Ⅰ）臨床研修施設においてケース管理を行うと共に 6 か月間の研修評価として自己評価・指導歯科医評価により評価する。

### 【専門診療研修】

専門診療科のプログラムに従いケース管理を行うと共に専門診療研修の到達度合を診療科ごとに自己評価・指導歯科医評価により評価する。

## 管理

管理に当たってはケース管理表を用いる。

## 修了認定

### 【修了判定を行う項目】

研修歯科医の評価は研修期間途中と研修修了時に行う到達目標の達成度の評価をもって行う。到達目標の達成度の評価は、ケース管理、臨床講義への出席 レポートの提出状況、学校歯科健診への参加、ケース報告、症例報告内容をもって行う。研修歯科医としての適性の評価は、日々の振り返り、指導歯科医評価、多面評価、自己評価、勤務状況をもって行う。

### 【修了判定を行う基準】

- ・ケース管理：実施した症例に対して指導歯科医は症例の承認を行う。  
必要症例数は、目標症例数100症例の7割以上とし、目標を達成するために必要な症例数は70症例とする。症例数は
- ・臨床講義：必要な臨床講義は全て出席とする。（欠席時はビデオ聴講とする。）
- ・レポート：全課題に対して提出は必須とし、評価基準がB以上であること。
- ・学校歯科健診：講義・実習の後、地域の学校での歯科健診を経験した者。
- ・ケース報告：診療科で行われるカンファレンスでのケース報告を行い、症例について検討できた者。
- ・症例報告：研修中2回の症例報告を行い、指導歯科医の評価に対し省察し、より良い考察をしていると指導歯科医が判定できた者。
- ・日々の振り返り：総合的な判断により形成的な変化が認められたと判定できた者。
- ・指導歯科医評価：指導歯科医の視点から歯科医師としての適性に欠くような行動を行っていない者（評価基準S、A、B）。（評価基準C、D）について指導歯科医の指導により明らかな行動変容が認められたと判定できた者。
- ・多面評価：歯科医師以外の医療職種の視点から歯科医師としての適性に欠くような行動を行っていない者（評価基準S、A、B）。（評価基準C、D）については多方面からの指導により明らかな行動変容が認められたと判定できた者。
- ・自己評価：研修歯科医が各到達目標に対する自身の達成状況を定期的に振り返り、課題を明確化するとともに、今後の学修目標設定につなげることを目的として実施する。評価項目は症例を達成するため必要な項目をステップごとに設定されている。研修歯科医の自己評価に対し指導歯科医がその評価の妥当性を確認し、3月での評価において指導歯科医の指導により5月・10月にたいし、経時的な行動変容が認められたと判定できた者。
- ・勤務状況：研修期間を通じて真摯な態度で研修を行っていたと判定できた者。

### 【修了の決定】

- ・指導歯科医は上記判定をプログラム責任者に報告し、プログラム責任者は指導歯科医の報告に基づき総合的に修了判定を行い、研修管理委員会に報告する。研修管理委員会はプログラム責任者からの報告に基づき研修歯科医の修了を決定する。
- ・研修未修了と判断した場合、当該研修歯科医には原則として同一プログラムにおいて引き続き不足分に関する追加研修を行うこととする。なお、この場合、当該研修歯科医の修了判定は追加研修の進捗状況に合わせて適宜行うこととし、修了が認められた時点で研修修了証を交付する。
- ・臨床研修プログラムの修了が認められた者には病院長より修了証が交付される。

**専門診療研修プログラム**

専門診療科での研修においても本院が定める研修目標をもとに研修を行い、必要な目標症例数を達成するために研鑽する。

<b>診療科名：総合診療科</b>
【1・3ヶ月共通コース】
<b>一般目標</b>
う蝕、歯周病、歯の欠損、口腔機能低下等を有する患者に対する総合的歯科治療について、患者背景を含む包括的な診査・診断、治療計画の立案、基本治療、機能回復、メンテナンスまでの基礎的な知識・技能・態度を身につける。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、総合診療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、適切な診査、診断をする。
③治療計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療の診療を指導下で実践する
⑤継続管理症例のメンテナンスに参画する。
【5・6ヶ月共通コース】
<b>一般目標</b>
う蝕、歯周病、歯の欠損、口腔機能低下等を有する患者に対する総合的歯科治療について、患者背景を踏まえた包括的な診査・診断、治療計画の立案を行い、保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療を実践するとともに、全身疾患等に配慮した患者への対応、救急患者の初期対応、継続管理症例のメンテナンスに必要な知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、総合診療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、適切な診査、診断をする。
③治療計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療指導下で実践する
⑤全身疾患等に配慮した患者の診療を経験する。
⑥救急患者の初期対応を行う。
⑦継続管理症例のメンテナンスを行う。
⑧症例検討を行い、包括的治療計画を立案する。
【8ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
う蝕、歯周病、歯の欠損、口腔機能低下等を有する患者に対する総合的歯科治療について、包括的な診査・診断、治療計画の立案を行い、保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療を実践するとともに、全身疾患等に配慮した患者、高齢者、有病者への対応、救急患者の初期対応、難治症例への対応、継続管理症例のメンテナンスに必要な知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、総合診療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、適切な診査、診断をする。
③治療計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療指導下で実践する
⑤全身疾患等に配慮した患者の診療を経験する。
⑥救急患者の初期対応を行う。
⑦継続管理症例のメンテナンスを行う。
⑧症例検討を行い、包括的治療計画を立案する。
⑨難治症例の診療を指導下で経験する。
【11ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
う蝕、歯周病、歯の欠損、口腔機能低下等を有する患者に対する総合的歯科治療について、包括的な診査・診断、治療計画の立案を行い、保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療を実践するとともに、全身疾患等に配慮した患者、高齢者、有病者、難治症例への対応、継続管理症例のメンテナンス及び一口腔単位での包括治療に必要な知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、総合診療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、適切な診査、診断をする。
③治療計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④保存修復治療、歯内治療、歯周基本治療、補綴治療指導下で実践する
⑤全身疾患等に配慮した患者の診療を経験する。
⑥救急患者の初期対応を行う。
⑦継続管理症例のメンテナンスを行う。
⑧症例検討を行い、包括的治療計画を立案する。
⑨難治症例の診療を指導下で経験する。
⑩一口腔単位での包括治療を経験する。

<b>診療科名：保存治療科</b>
<b>一般目標</b>
【3ヶ月コース・5ヶ月6ヶ月コース・8ヶ月コース、11ヶ月コース共通】
専門的歯内治療およびMIDIに基づく審美修復処置の実施に必須の手法を修得する。 指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。
<b>行動目標・研修内容</b>
①歯の硬組織疾患の診査、診断、治療および予防法を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。

③基本的診察姿勢及びミラーテクニック、アシスタントワーク（4ハンドシステム）を修得する。
④歯内治療におけるラバーダム防湿法（隔壁形成を含む）を実施する。
⑤隣接面を含む修復処置を実施する。
⑥根面う蝕への対処法（非侵襲的治療および修復処置）を実施する。
⑦専門的歯内治療（ラバーダム防湿下での手用器具による根管形成・超音波洗浄、貼薬、根管充填、仮封）を実施する。
【3ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
マイクロスコープを用いたミラーテクニックと口腔内診査を修得する。 3ヶ月コースは患者配当型を基本とする。
<b>行動目標・研修内容</b>
①顕微鏡下によるミラーテクニックの方法と口腔内診査を実施する。
【5ヶ月・6ヶ月・8ヶ月11ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
マイクロスコープを用いた歯内治療・審美修復処置の基本的手技を修得する。 5ヶ月・6ヶ月・8ヶ月・11ヶ月コースは患者配当型を基本とする。
<b>行動目標・研修内容</b>
①顕微鏡下による窩洞形成、根管治療を実施する。

<b>診療科名：歯周病科</b>
<b>一般目標</b>
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5カ月コース、6カ月コース共通】
歯周疾患の病態を理解し、適切な治療の補助・処置を行うことができる。難度の高い歯周基本治療（根面溝・根分岐部病変を有する歯のSRP、プラークリテンションファクターの除去（う蝕治療、歯内療法）、治療用義歯作製など）の技術を習得する。導歯科医・上級歯科医の指導のもと、治療・治療補助を行う。（患者配当型） 経験した症例を1症例とする。
<b>行動目標・研修内容</b>
①歯周疾患の検査、診断、治療を説明する。（医療面接）
②適切な検査方法を用い、的確な診断を行い、治療計画を立案する。 （医療面接 症例検討）
③難易度の高い歯周基本治療（根面溝・根分岐部病変を有する歯のSRPなど）を実施する。（医療面接 治療実施）
【3ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
1ヶ月コースの内容に加え、歯周外科（フラップ手術、歯周組織再生療法、歯周形成術など）の診察補助を行い、その手技を見学する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①歯周外科（フラップ手術、歯周組織再生療法、歯周形成術など）の診察補助を行う。（症例検討 診察補助）
【5・6ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
3ヶ月コースの内容に加え、担当患者の歯周外科（主にフラップ手術等の組織付着療法）を指導歯科医・上級歯科医の指導のもと計画・実施し、必要最低限の外科的手技を習得する。 外科手術後の経過観察を行い、組織付着療法による治癒過程を理解する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①担当した患者の歯周外科（主にフラップ手術）を実施する。
②歯周治療による歯周組織の改善を評価する。
【8ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
6ヶ月コースの内容に加え、担当患者の歯周外科（切除療法や歯周組織再生療法など）を指導歯科医・上級歯科医の指導のもと計画・実施し、必要最低限の外科的手技を習得する。 外科手術後の経過観察を行い、必要に応じて口腔機能回復治療を実施する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①担当した患者の歯周外科（フラップ手術に加えて、本人の努力次第では切除療法や歯周組織再生療法も対象）を実施する。
②歯周治療による歯周組織の改善を評価し、その後の口腔機能回復治療を実施する。
【11ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
8ヶ月コースの内容に加え、日本歯周病学会認定医取得を考慮した担当患者の症例報告書、並びに視覚資料を指導歯科医・上級歯科医の指導のもと作成する。 外科手術後の経過観察を行い、必要に応じて口腔機能回復治療やメンテナンス・SPTを実施する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①担当した患者の歯周基本治療、歯周外科治療、および口腔機能回復治療まで実施して、学術的な症例報告書を作成する。
②歯周治療による歯周組織の改善を評価し、その後の口腔機能回復治療だけでなくメンテナンス・SPTを実施する。

<b>診療科名：義歯科</b>
<b>一般目標</b>
【1ヶ月・3ヶ月コース共通】
難易度の高い欠損補綴治療や顎補綴治療、睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療の見学または介助を行い、より高度な診察・検査・診断及び治療計画立案に関する知識・態度を身につける。 専門的な補綴治療について見学または介助を行い、必要な知識を身につける。
<b>行動目標・研修内容</b>
①患者に配慮した医療面接を見学する。
②上級歯科医・指導歯科医が行う検査結果・所見、診断、治療計画に関する患者への説明および同意を得る過程を見学する。
③補綴装置等の破損や脱離のため緊急来院した患者に対し、応急処置の介助または見学を行う。
④欠損補綴治療に関して診査・診断から補綴装置（Br、PD、FD）装着・装着後のフォローまでの見学または介助する。

⑤顎欠損補綴治療に関して診査・診断から顎補綴装置装着・装着後のフォローまでの治療を見学または介助する。
⑥睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療に関して診査・診断から口腔内装置装着・装着後のフォローまでの治療を見学または介助する。
⑦診療に関する書類・記録（診療録、処方せん、歯科技工指示書、診療情報提供書等）を正確に記載する。
【5か月・6か月・8か月コース】
全部床欠損、部分床欠損、顎欠損を有する患者のうち、比較的難易度の高い症例を経験することで、有床義歯補綴を中心とした補綴治療の臨床手技および技工手技を習得できる。全部床欠損、部分床欠損患者の補綴的機能回復については外径印象採得から完成有床義歯装着、調整まで研修医自身がすべてを実践する。したがって、短期間（1～3か月）ではこれらのことを行うことは難しく、できるだけ長い研修が望ましい。顎欠損を有する患者については術前から術後顎補綴装置製作にいたる全過程を見学または介助することで、専門的な知識を身につける。有床補綴治療以外には、スプリント治療をはじめとする顎機能障害に対する治療やインプラント治療を除くCr-Br治療、さらに睡眠時無呼吸症に対するスリープスプリントによる治療も実践できる。研修期間中、他の専門科では学べない歯科補綴学についてより専門的な知識を指導医から学び、診察・検査・診断及び治療計画立案に必要な補綴的専門知識を学修できる。見学や座学ではなく、すべてを実践することは自身へのフィードバックが大きく、将来の歯科医師人生においては有益な学びが可能となる。歯科臨床は人間関係での構築が重要で、長期の研修でなければ実践できない。
【11か月コース】
全部床欠損、部分床欠損、顎欠損を有する患者のうち、比較的難易度の高い症例を経験することで、有床義歯補綴を中心とした補綴治療の臨床手技および技工手技を習得できる。全部床欠損、部分床欠損患者の補綴的機能回復については外径印象採得から完成有床義歯装着、調整まで研修医自身がすべてを実践する。したがって、短期間（1～3か月）ではこれらのことを行うことは難しく、できるだけ長い研修が望ましい。外科的手術を必要とする顎骨腫瘍または嚢胞等の患者に対し、術後顎補綴装置の製作を行う。さらに顎欠損を有する患者については術後顎補綴装置製作・調整における全過程を見学または介助することで、専門的な知識を身につける。有床補綴治療以外には、スプリント治療をはじめとする顎機能障害に対する治療やインプラント治療を除くCr-Br治療、さらに睡眠時無呼吸症に対するスリープスプリントによる治療も実践できる。研修期間中、他の専門科では学べない歯科補綴学についてより専門的な知識を指導医から学び、診察・検査・診断及び治療計画立案に必要な補綴的専門知識を学修できる。見学や座学ではなく、すべてを実践することは自身へのフィードバックが大きく、将来の歯科医師人生においては有益な学びが可能となる。歯科臨床は人間関係での構築が重要で、長期の研修でなければ実践できない。
<b>行動目標・研修内容</b>
①患者に配慮した医療面接を行うことができる。
②上級歯科医・指導歯科医が行う検査結果・所見、診断、治療計画に関する患者への説明および同意を得ることができる。
③補綴装置等の破損や脱離のため緊急来院した患者に対し、応急処置を行うことができる。
④欠損補綴治療に関して診査・診断から補綴装置（Br、PD、FD）装着・装着後のフォローまでを行うことができる。
⑤顎欠損補綴治療に関して診査・診断から顎補綴装置装着・装着後のフォローまでの治療を行うことができる。
⑥睡眠時無呼吸症に対する口腔内装置治療に関して診査・診断から口腔内装置装着・装着後のフォローまでを行うことができる。
⑦診療に関する書類・記録（診療録、処方せん、歯科技工指示書、診療情報提供書等）を正確に記載することができる。
<b>診療科名：口腔インプラント科</b>
【1ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全顎的な診査・診断、治療計画の立案、機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を身につける。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジに必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジの適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジの計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジに補助として参画する。
⑤クラウン・ブリッジのメンテナンスに参画する。
【3ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全顎的な診査・診断、治療計画の立案、インプラントを含めた機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を身につける。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い診療補助を行う。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
【5・6ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全顎的な診査・診断、治療計画の立案、インプラントや審美補綴、デジタルデンティストリーを含めた機能回復、メンテナンスまでの知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い診療補助を行う。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
⑦審美補綴治療の計画の症例検討を行う。
⑧審美補綴治療の診療補助として治療に参画する。
⑨オーラルスキャナーなどデジタルデンティストリーを応用した補綴治療の症例検討を行い、治療の診療補助として参画する。
【8ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全顎的な診査・診断、治療計画の立案、インプラントや審美補綴、デジタルデンティストリーを含めた機能回復、難症例への対応、メンテナンスまでの知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。

②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い治療に参画する。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
⑦審美補綴治療の計画の症例検討を行う。
⑧審美補綴治療の診療補助として治療に参画する。
⑨オーラルスキャナーなどデジタルデンティストリーを応用した補綴治療の症例検討を行い、治療に参画する。
⑩補綴的難症例の診療補助として参画する。

【1ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯冠の欠損、歯の欠損を有する症例における補綴歯科治療について、欠損に至った原因を含む全顎的な診査・診断、治療計画の立案、骨造成を含むインプラントや審美補綴、デジタルデンティストリーを含めた機能回復、難症例への対応、メンテナンスまでの知識・技能・態度を修得する。
<b>行動目標・研修内容</b>
①適切な医療面接を行い、クラウン・ブリッジ、インプラント治療に必要な検査を説明する。
②検査結果をもとに、クラウン・ブリッジ、インプラント治療の適切な診査、診断をする。
③クラウン・ブリッジ、インプラント治療の計画についてカンファレンスにてディスカッションする。
④クラウン・ブリッジ、インプラント埋入手術（骨造成術を含む）に主体的に参画する。
⑤クラウン・ブリッジ、インプラント上部構造の設計、作製、装着の症例検討を行い治療に参画する。
⑥クラウン・ブリッジ、インプラントのメンテナンスに参画する。
⑦審美補綴治療の計画の症例検討を行う。
⑧審美補綴治療の治療に参画する。
⑨オーラルスキャナーなどデジタルデンティストリーを応用した補綴治療の症例検討を行い、治療に参画する。
⑩補綴的難症例の診療補助として参画する。

<b>診療科名：口腔顎顔面外科</b>
<b>一般目標</b>
【1ヶ月コース・3ヶ月・5ヶ月・6ヶ月コース共通】
口腔外科疾患の病態と臨床経過を把握する。また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈が得られる指導歯科医・上級歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）

<b>行動目標・研修内容</b>
①口腔外科的疾患の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
【1ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯適応症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、軟組織外傷、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。

<b>行動目標・研修内容</b>
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②歯性感染症治療を実施する。
③嚢胞性疾患治療を実施する。
④軟組織縫合術を実施する。
⑤入院管理に必要な検査を説明する。
⑥入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑦診療に必要な診療情報提供書を作成する。

【3ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎関節脱臼、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。口腔機能低下症、摂食嚥下障害治療を実施する。

<b>行動目標・研修内容</b>
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②歯性感染症治療を実施する。
③簡単な埋伏歯抜歯術を実施する。
④嚢胞性疾患治療を実施する。
⑤歯の整復固定を実施する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明する。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑪診療に必要な診療情報提供書を作成する。

【5・6ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、嚢胞性疾患、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎関節脱臼、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。口腔機能低下症、摂食嚥下障害治療を実施する。全身麻酔下または静脈内鎮静法下小手術における執刀医経験を積む。

<b>行動目標・研修内容</b>
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②菌性感染症治療を実施する。
③簡単な埋伏歯抜歯術を実施する。
④嚢胞性疾患治療を実施する。
⑤歯の整復固定を実施する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明する。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
⑪全身麻酔下または静脈下鎮静法下にて小手術を実施する。
⑫診療に必要な診療情報提供書を作成する。
【8ヶ月コース】

**一般目標**  
6か月コースで修得した技能を基盤として、外傷・感染症・嚢胞性疾患などの初期対応から治療計画立案までを主担当として遂行する。全身麻酔症例を含む周術期管理の自立度を高め、より高度な小手術の執刀経験を積む。

<b>行動目標・研修内容</b>
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②菌性感染症治療を実施する。
③簡単な埋伏歯抜歯術を実施する。
④嚢胞性疾患治療を実施する。
⑤歯の整復固定を主担当として実施する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明し、周術期管理を主導する。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療に主担当として参画する。
⑪全身麻酔下または静脈内鎮静法下小手術の執刀経験を重ね、術式選択・リスク評価を説明する。
⑫診療に必要な診療情報提供書を作成する。
【11ヶ月コース】

**一般目標**  
口腔外科領域の主要疾患について、診断・治療計画・手術・周術期管理を一連で遂行できる能力を身につける。症例カンファレンスにおいて治療方針を提案できるレベルを目指し、専門医初期段階に相当する総合的技能を修得する。

<b>行動目標・研修内容</b>
①有病者患者の普通抜歯術を実施する。
②菌性感染症治療を実施する。
③中等度難易度の埋伏歯抜歯術を主執刀として実施する。
④嚢胞性疾患治療を主担当として実施する。
⑤歯の整復固定を一貫して担当する。
⑥軟組織縫合術を実施する。
⑦歯根端切除術を主執刀として実施する。
⑧顎関節脱臼整復術を実施する。
⑨入院管理に必要な検査を説明し、周術期管理を自立して行う。
⑩入院管理下における口腔外科的疾患の治療を主導する。
⑪全身麻酔下または静脈内鎮静法下にて小手術を複数経験し、術後合併症の初期対応を行う。
⑫診療に必要な診療情報提供書および退院サマリーを適切に作成する。

**診療科名：口腔内科・口腔外科**

**一般目標**  
【1ヶ月コース・3ヶ月コース・5ヶ月コース・6ヶ月コース共通】  
口腔外科疾患の病態と臨床経過を把握する。また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。  
指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）

<b>行動目標・研修内容</b>
①医療面接において口腔外科的疾患の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
【1ヶ月コース】

**一般目標**  
有病者患者の普通抜歯適応症例、菌性感染症、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。

<b>行動目標</b>
有病者患者の普通抜歯術、菌性感染症治療、顎関節症治療、粘膜疾患の症例検討、診療補助、治療の実践をする。
【3ヶ月コース】

**一般目標**  
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、菌性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。

<b>行動目標</b>
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術、を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。
【5・6ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。模型実習や手術症例（全身麻酔・局所麻酔）の実践を通して、口腔外科処置の技術を習得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。カンファレンスに参加し、治療の流れの理解、口腔外科の知識の習得をした上で、実際に治療計画の作成を行う。
<b>行動目標</b>
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。指導歯科医師の下で、担当患者の治療計画の立案、患者への説明や、処置の実施を行う。
【8ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。模型実習や手術症例（全身麻酔・局所麻酔）の実践を通して、口腔外科処置の技術を習得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。カンファレンスに参加し、治療の流れの理解、口腔外科の知識の習得をした上で、実際に治療計画の作成を行う。
<b>行動目標</b>
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。指導歯科医師の下で、担当患者の治療計画の立案、患者への説明や、処置の実施を行う。カンファレンスでは自身の症例以外の症例に質疑する。
【11ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
有病者患者の普通抜歯・簡単な埋伏歯抜歯症例、歯性感染症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、嚢胞性疾患、顎関節脱臼、顎関節症、粘膜疾患の診断から治療まで修得する。模型実習や手術症例（全身麻酔・局所麻酔）の実践を通して、口腔外科処置の技術を習得する。小手術や全身麻酔手術を含めた周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。入院患者の担当医となり、治療計画、患者説明、手術、周術期管理、退院指導を行う。カンファレンスに参加し、治療の流れの理解、口腔外科の知識の習得をした上で、実際に治療計画の作成を行う。その内容をカンファレンスで発表する。
<b>行動目標</b>
有病者患者の普通抜歯術、歯性感染症治療、顎関節症症例治療、粘膜疾患症例治療、簡単な埋伏歯抜歯術、歯の整復固定、軟組織縫合術、歯根端切除術、顎関節脱臼整復術を実施する。入院管理に必要な検査を説明する。入院管理下における口腔外科的疾患の治療に参画する。指導歯科医師の下で、担当患者の治療計画の立案、患者への説明や、処置の実施を行う。カンファレンスでは自身の症例を発表し、自身の症例の質疑に応答する。
<b>診療科名：歯科麻酔科・ペインクリニック</b>
<b>一般目標</b>
【3ヶ月コース共通】
患者の病態と臨床経過を把握し、また全身病態との関連を把握して医療面接から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき、結果の解釈ができる。周術期管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。 研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型）
①周術期管理に必要な患者情報を患者に説明し症例検討を行う。
②適切な方法を用い、的確な診査、診断、検査結果の解釈をする。
【5ヶ月コース・6ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
外来、手術室でのモニター管理、静脈路確保、気道確保を含めた静脈内鎮静法の周術期管理、気管挿管（ファイバー挿管を含む）などの高度な気道管理や動脈圧ライン確保を含む全身麻酔の周術期管理を修得する。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型） 研修歯科医の希望に応じて歯科麻酔科・ペインクリニック外来で指導歯科医・上級歯科医の指導の下、神経ブロック（三叉神経節ブロック、星状神経節ブロック、トリガーポイントブロック等）を含めた難治性の口腔顔面痛診療を行う。（患者配当型）
<b>行動目標</b>
①外来、手術室での静脈内鎮静法、全身麻酔の症例検討を行い診療補助を行う。
②再建手術の周術期管理に必要な検査、モニタリングを説明し、医療面接を行う。
③再建手術の周術期管理に際し症例検討を行い診療補助として参画する。
④難治性の口腔顔面痛に対する対応・治療法を正しく理解する。
⑤将来的な日本歯科麻酔学会認定医、日本口腔顔面痛学会認定医取得を目指し必要な症例の収集などを行う。
【8ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
外来、手術室でのモニター管理、静脈路確保、気道確保を含めた静脈内鎮静法の周術期管理、気管挿管（ファイバー挿管を含む）などの高度な気道管理や動脈圧ライン確保を含む全身麻酔の周術期管理を修得する。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型） 研修歯科医の希望に応じて歯科麻酔科・ペインクリニック外来で指導歯科医・上級歯科医の指導の下、神経ブロック（三叉神経節ブロック、星状神経節ブロック、トリガーポイントブロック等）を含めた難治性の口腔顔面痛診療を行う。（患者配当型）
<b>行動目標</b>
①外来、手術室での静脈内鎮静法、全身麻酔の症例検討を行い診療補助を行う。
②再建手術の周術期管理に必要な検査、モニタリングを説明し、医療面接を行う。
③再建手術の周術期管理に際し症例検討を行い診療補助として参画する。
④難治性の口腔顔面痛に対する対応・治療法を正しく理解する。
⑤将来的な日本歯科麻酔学会認定医、日本口腔顔面痛学会認定医取得、日本障害者歯科学会認定医取得を目指し必要な症例の収集などを行う。
⑥将来的な学位取得、日本歯科麻酔学会専門医・日本口腔顔面痛学会専門医取得を目指し、臨床研究・論文・学会発表を行う。
【11ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
外来、手術室でのモニター管理、静脈路確保、気道確保を含めた静脈内鎮静法の周術期管理、気管挿管（ファイバー挿管を含む）などの高度な気道管理や動脈圧ライン確保を含む全身麻酔の周術期管理を修得する。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う。（患者配当型） 研修歯科医の希望に応じて歯科麻酔科・ペインクリニック外来で指導歯科医・上級歯科医の指導の下、神経ブロック（三叉神経節ブロック、星状神経節ブロック、トリガーポイントブロック等）を含めた難治性の口腔顔面痛診療を行う。（患者配当型）

<b>行動目標</b>
①外来、手術室での静脈内鎮静法、全身麻酔の症例検討を行い診療補助を行う。
②再建手術の周術期管理に必要な検査、モニタリングを説明し、医療面接を行う。
③再建手術の周術期管理に際し症例検討を行い診療補助として参画する。
④難治性の口顔面痛に対する対応・治療法を正しく理解する。
⑤将来的な日本歯科麻酔学会認定医、日本口顔面痛学会認定医取得、日本障害者歯科学会認定医取得を目指し必要な症例の収集などを行う。
⑥将来的な学位取得、日本歯科麻酔学会専門医・日本口顔面痛学会専門医取得を目指し、臨床研究・論文・学会発表を行う。

**診療科名：あんしん科**

**一般目標**

【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】

障害者・有病者の身体的および心理的な特徴と歯科診療上の留意点を理解する。また、患者の病態と臨床経過を把握し、医療面接から得られた情報をもとに、全身管理を主軸とした歯科治療計画のための知識・態度・技術を修得することができる。  
指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う（患者配当型）。

**行動目標**

- ①患者の全身状態の評価と、必要な対応を行うことができる。
- ②患者の全身状態を把握したうえで、最適な治療計画を構築することができる。

【1ヶ月コース】

**一般目標**

障害者・有病者の全身状態から適切な評価と診断を行うことができ、必要な治療計画を立てることができる。また、行動調整法である行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を選択し適切に行うことができる。（患者配当型）

**行動目標**

- ①患者の全身状態の評価と、必要な行動調整法を選択することができる。
- ②適切な行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を行うことができる。

【3ヶ月コース】

**一般目標**

1ヶ月コースの目標に加え、必要な治療計画を立て、その治療を実行することができる。また、専門的な行動調整法である静脈内鎮静法、全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。周術期管理までを含めた患者管理を行うことができる。（患者配当型）

**行動目標**

- ①患者の全身状態の評価と、必要な行動調整法を選択することができる。
- ②適切な行動療法、身体抑制法、吸入鎮静法を行うことができる。
- ③静脈内鎮静法による歯科治療を行うことができる。
- ④全身麻酔法による歯科治療を行うことができる。

**診療科名：歯科放射線科**

**一般目標**

【1ヶ月コース】

歯科疾患を診断するための基本的画像の撮影法を習得する。  
歯科疾患を診断するための正常画像所見を習得する。  
日常臨床で遭遇する頻度の高い歯科関連疾患の臨床的及び画像的特徴を把握する。  
研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医の指導の下、検査・診断を行う。（患者配当型）

**行動目標**

- ①デンタル・パノラマエックス線写真、歯科用CBCTの撮影を行う。
- ②成書、PACSにより正常画像解剖の学習をする。
- ③読影報告書の作成 症例検討を行う。
- ④放射線防護に関する知識を習得する

**一般目標**

【3ヶ月コース】

1か月コースの目標に加え、基本的撮影技術および正常画像解剖の理解を確実にする。  
代表的歯科疾患の画像診断の基礎を習得する。  
読影レポート作成の基本能力を身につける。

**行動目標**

- ①デンタル・パノラマエックス線写真、歯科用CBCTの標準的撮影を自立して行う。
- ②正常画像解剖および基本的異常所見（う蝕、歯周病、根尖病変など）を説明できる。
- ③症例検討会に参加し、症例のプレゼンテーションを行う。
- ④放射線防護の原則（ALARAなど）を理解し実践する。

**一般目標**

【5ヶ月コース】【6ヶ月コース】共通

1・3か月コースの目標に加え、画像診断の精度向上と、臨床との関連付けを強化する。  
CBCTの読影能力を向上させる。

**行動目標**

- ①難易度の高い撮影（埋伏歯、顎関節、インプラント術前評価）に対応する。
- ②歯科主要疾患（嚢胞、腫瘍、外傷など）の画像的特徴を説明できる。
- ③CBCT画像の三次元的評価（断面像・再構成像）を行う。
- ④一日にデンタル10件、パノラマ5件、CBCT2件の読影レポートを作成し、添削を受ける（患者配当）。

**一般目標**

【8ヶ月コース】

5・6か月コースの目標に加え、高度な画像診断能力を習得し、臨床判断に寄与できるレベルに到達する  
チーム医療の中で画像診断の役割を担う

<b>行動目標</b>
①歯科主要疾患（嚢胞、腫瘍、外傷など）の画像的特徴を踏まえ、読影報告書を作成する。
②CBCT画像の三次元的評価（神経管走行、骨質評価）を実施できる。
③症例検討会に参加し、症例のプレゼンテーションを行う。
④診断結果を治療計画に反映させ、他科と連携できる
<b>一般目標</b>
【11ヶ月コース】
8か月コースの目標に加え、歯科放射線診断の実践的専門性を確立する 臨床・研究・教育のバランスを備えた人材を育成する 大学院進学後の研究活動および歯科放射線認定医取得に必要な基礎能力を養う
<b>行動目標</b>
①難易度の高い撮影（埋伏歯、顎関節、インプラント術前評価）に対応する。
②高度な画像診断能力の確立。
③読影報告書の質向上と標準化。
④症例報告や学会発表の準備・実施を行う。

<b>診療科名：小児歯科</b>
<b>一般目標</b>
【1ヶ月コース・3ヶ月コース共通】
日常的に高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する小児患者に安全な歯科保健医療を提供するために、基本的な歯科治療技術とマネージメント能力を身につける。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）各行動目標を経験した場合、それぞれを1例とする。
<b>行動目標</b>
①小児の心身の発育状態に適した対応法をする。
②主訴を的確に捉え、患者や保護者に適切に対応する。
③適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。
④1口腔単位を基本とした齶蝕治療を選択し、実施する。
⑤歯周疾患の診査、診断ができ、適切な処置をする。
⑥外傷歯に対する適切な処置をする。
⑦保障処置の診断ができ、適切な保障装置の作製および処置をする。
⑧乳歯抜歯の適応症が説明でき、実施する。
⑨軟組織疾患について診査、診断および適切な処置をする。
⑩患者の年齢、口腔状況に応じた予防処置をする。
【5か月・6か月・8か月コースは1ヶ月コース・3ヶ月コース共通に+α】
日常的に高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する小児患者に安全な歯科保健医療を提供するために、基本的な歯科治療技術とマネージメント能力を身につける。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）各行動目標を経験した場合、それぞれを1例とする。

<b>行動目標</b>
①小児の心身の発育状態に適した対応法をする。+非協力児へ適切な対応をする。
②主訴を的確に捉え、患者や保護者に適切に対応する。+ラポールの形成ができるようになる。
③適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。+小児特有な疾患に対する適切な診査、診断をする。
④1口腔単位を基本とした齶蝕治療を選択し、実施する。
⑤歯周疾患の診査、診断ができ、適切な処置をする。
⑥外傷歯に対する適切な処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑦保障処置の診断ができ、適切な保障装置の作製および処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑧乳歯抜歯の適応症が説明でき、実施する。+乳歯難抜歯を実施する。
⑨軟組織疾患について診査、診断および適切な処置をする。
⑩患者の年齢、口腔状況に応じた予防処置をする。

【11か月コースは1ヶ月コース・3ヶ月コース共通に+α】
日常的に高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する小児患者に安全な歯科保健医療を提供するために、基本的な歯科治療技術とマネージメント能力を身につける。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、診療を行う。（患者配当型）各行動目標を経験した場合、それぞれを2例とする。
<b>行動目標</b>
①小児の心身の発育状態に適した対応法をする。+非協力児へ適切な対応をする。
②主訴を的確に捉え、患者や保護者に適切に対応する。+ラポールの形成ができるようになる。
③適切な検査方法を用い、的確な診査、診断する。+小児特有な疾患に対する適切な診査、診断をする。
④1口腔単位を基本とした齶蝕治療を選択し、実施する。
⑤歯周疾患の診査、診断ができ、適切な処置をする。
⑥外傷歯に対する適切な処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑦保障処置の診断ができ、適切な保障装置の作製および処置をする。+定期健診を行い、適切な診査、診断、処置をする。
⑧乳歯抜歯の適応症が説明でき、実施する。+乳歯難抜歯を実施する。
⑨軟組織疾患について診査、診断および適切な処置をする。
⑩患者の年齢、口腔状況に応じた予防処置をする。

<b>診療科名：矯正歯科</b>
【1ヶ月コース】
<b>一般目標</b>
歯や口腔機能を回復する役割を担う歯科の中における、矯正歯科の役割を理解するために、診察・検査・診断、治療計画立案、矯正装置の使用に関する基本的な知識・技能・態度を身につける。研修歯科医は指導歯科医・上級歯科医とともに指導の下で検査、診断、治療を行う。 経験または見学した症例を各1症例として数える。

<b>行動目標</b>
①初診医療面接を診療補助、見学する。
② 矯正歯科治療の概略（治療方法、ベネフィット、リスク、治療期間）を説明するため、歯式記録、全身的病歴、既往歴、家族歴を聴取する。
③不正咬合に関係する口腔内・外診察を行うため矯正診断に必要な検査（印象・咬合採得、顎態模型の製作、顔面規格写真・口腔内写真撮影、頭部×線規格写真の撮影依頼）の実施、見学を行う。
④顔面・口腔内写真、×線写真の評価や、顎態模型、頭部×線規格写真の分析を行い、治療方針、治療計画を立案する。
⑤各種矯正装置の構造、機能を理解し、使用方法の説明に対する診療を見学、診療補助を行う。
⑥ 矯正治療の経過に対する診療を見学、診療補助を行う。
⑦症例に関するカンファレンスや学会等に参加する。

**診療科名：口腔リハビリテーションセンター**

<b>一般目標</b>
【全コース共通】
要介護高齢者、オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害の病態と臨床経過を把握し、また、全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断、実践し、結果の解釈ができる。指導歯科医・上級歯科医の指導の下、治療を行う（患者担当型）。適宜、歯科衛生士と連携し、指導を受ける。

<b>行動目標</b>
①オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害の診査、診断、治療を説明する。
②適切な検査方法を用い、的確な診査、診断、リハビリテーションを実践する。
【1ヶ月コース】

<b>一般目標</b>
外来患者のオーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度を修得する。

<b>行動目標</b>
①オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を立案する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療に参画する。
【3ヶ月コース】

<b>一般目標</b>
外来患者のオーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。当院入院中の頭頸部腫瘍術後患者に対して、術前から術後を通じた口腔機能、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーション、栄養管理までの立案を修得する。

<b>行動目標</b>
①オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を実施する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療に参画する。
【5ヶ月・6ヶ月・8ヶ月コース】

<b>一般目標</b>
外来患者のオーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。当院入院中の頭頸部腫瘍術後患者に対して、術前から術後を通じた口腔機能、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーション、栄養管理までの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。摂食嚥下障害の長期症例に対して、経過観察を立案する。

<b>行動目標</b>
①オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を実施する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療を実施する。
【11ヶ月コース】

<b>一般目標</b>
外来患者のオーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーションまでの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。歯科訪問診療に同行し、全身状態の把握、口腔内診査、口腔健康管理を行うために必要な知識、態度、技能を修得する。当院入院中の頭頸部腫瘍術後患者に対して、術前から術後を通じた口腔機能、摂食嚥下障害のスクリーニング、精密検査、診断からリハビリテーション、栄養管理までの立案と実践に必要な知識、態度、技能を修得する。摂食嚥下障害の長期症例に対して、経過観察に必要な知識、態度、技能を修得する。

<b>行動目標</b>
①オーラルフレイル、口腔機能低下症、摂食嚥下障害への治療を実施する。
②歯科訪問診療における口腔健康管理をはじめとする治療を実施する。